

わが

そば・バラ・徳内ばやしのまち 次世代に引き継ぐ魅力あるまちを目指して

はじめに

村山市は、山形県の中心部に位置し、東を奥羽山脈、西に出羽丘陵に囲まれ、中央を最上川が蛇行しながら北流する自然豊かなところです。気候は、典型的な内陸型



日本有数の規模を誇る「東沢バラ公園」

で、夏の温度差が大きいところが特徴です。観光資源は、日本でも有数の規模を誇る「東沢バラ公園」や、そば街道発祥の地として有名な「最上川三難所そば街道」、北海道厚岸町のお囃子を基にした「徳内ばやし」が柱となっています。

基幹産業である農業は、稲作をはじめ多くの品種の農産物が収穫されます。中でもサクランボやスイカは、寒暖差の大きな気候の影響を受け糖度が高く、市場でも高い評価を受けています。

伝統を引き継ぎながら

本市は、居合道の始祖、林崎甚助重信公の生誕の地です。市内には、「日本一社林崎居合神社」があり、居合道の聖地として多くの剣士が訪れます。毎年6月には、「全国各流居合道さくらんぼ大会」を



外国人も気軽に楽しめる「居合道体験プログラム」

開催しており、全国各地から参加する約400名が、日頃の鍛錬の成果を競い合います。2018年から、サムライ体験として、居合道を気軽に体験できるプログラムを構築し、観光客やインバウンドの受け入れにも取り組んでいます。これらの事業を通して、居合道の継承とともに観光客の誘致を図っていきます。



浅草寺への大草鞋奉納

2018年10月には、日本有数の観光地である浅草寺の宝蔵門に、大草鞋を10年ぶりに奉納しました。本市の楯岡荒町内の住民が主体となって大草鞋を製作し、10年に一度奉納しています。1941年から続く、伝統的な行事として継承されていますが、今回の奉納で8回目を数えました。奉納当日は晴天に恵まれ、駆け付けた市民や多くの観光客が見守る中、仲見世商店街を練り歩き、無事に奉納を終えることができました。今後、大草鞋の伝統を継承しながら奉納行事を支えていきます。

バラが縁となり東京 2020オリンピックピック・ パラリンピックに向けて

2016年12月に、ブルガリア共和国のホストタウンとして登録されました。2017年3月には、全国のトップを切って、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿の協定をブルガリア共和国新体操連盟と締結しました。同年6月には、新体操ナショナルチームによる事前合宿「ローズキャンプ」が、2週間の日程で始まりました。合宿期間中は、ナショナルチームによる公開演技会をはじめ、市民と触れ合う時間や市内の小中学校への訪問など、たくさん交流が図られました。今では、市民によるボラン



ブルガリア新体操ナショナルチームによる事前合宿「ローズキャンプ」

ティア団体が設立され、合宿期間中の支援のほか、ナショナルチームの応援団として活躍しています。本年7月には、3回目の「ローズキャンプ」が計画されています。パラリンピックを見据えた強化合宿になりますので、市民と一緒に選手をサポートし、機運を高めていきたいと思っています。

魅力あるまちを目指して

人口減少問題は、本市も例外ではありません。この対策のため、利便性の高い場所に安価な宅地を造成し、若者の定住促進に結びつく施策に力を入れています。また、子育て世帯の住宅新築に対しての補助金や、市外からの転入者に対しての家賃助成などの事業にも取り組んでいます。

子育て支援策として、本年度から新たに、ロタウイルスの予防接種費用の助成や、中学校入学時における制服等購入費の一部助成を始めました。学習支援としては、中学1・2年生を対象にした学習会の開催や、ひとり親家庭の小中学生を対象にした無料の学習塾を開催しています。2016年度か

らは、給付型奨学金を創設し、志のある学生を支援することで次世代を担う人材を育てていきます。

まちづくり事業は、数年後に迫る東北中央自動車道の開通を見越して、アクセス道路の整備や村山駅西エリアの開発を計画的に進めているところです。中心市街地は、県立楯岡高等学校跡地の利活用が大きな課題となっていますが、「多様な利用者が集い、にぎわいの創出と経済効果を生む拠点」としての複合拠点化を目指すこと

で、商店街への波及効果を期待しています。

本市は、本年、市制施行65周年を迎えました。10年後、20年後を見据えた、魅力あるまちづくりのため、市民が暮らしやすいまちづくりを行う「市民生活環境の向上」と、未来を担う子どもたちを育て「子育て支援の強化」、豊かな人間性と確かな学力を身につける「教育の充実」に取り組み、一步一步その実現に向け、これらの施策を着実に前進させていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 196・83 km²
- ◆ 人口 2万4232人
- ◆ 世帯数 8195世帯

〔将来都市像〕次世代に引き継ぐ魅力あるまち

〔まちの特徴〕東西を山に囲まれ、中央には最上川が流れる自然豊かなまち

〔特産品〕板そば、雪室米、サクランボ、



村山市長
志布隆夫



スイカ、じゅんさい、日本酒（十四代・手間暇）
〔観光〕東沢バラ公園、最上川三難所、日本一社林崎居合神社、最上川美術館、最上徳内記念館
〔イベント〕東沢公園バラまつり、むらやま徳内まつり、板そばまつり、最上川フェスティバル（スマイル）マラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

魅力あふれひとがつつながる 文化都市国分寺

さまざまな個性が輝く 国分寺市

本年度で市制施行55周年を迎える国分寺市は、東京都の中心、いわゆる東京の「へそ」に位置し、市内にはJR中央線・武蔵野線、西武国分寺線・多摩湖線が縦横に走っています。中でも国分寺駅は多摩地域の交通の要衝となっており、2018年には東西2棟の国分寺駅北口再開発ビルが竣工しました。



四季折々の散策路としても人気がある「お鷹の道・真姿の池湧水群」

本市は奈良時代の天平の昔、全国最大規模を誇る武蔵国分寺が建立された歴史のまちです。また、名水百選の「お鷹の道・真姿の池湧水群」をはじめとした自然豊かなまち、そしてロケット開発の礎となる日本初のペンシルロケット

水平発射実験が行われた日本の宇宙開発発祥の地、新幹線ひかり号の各種開発実験を行っていた科学技術のまちでもあります。

誰もが安心して暮らせる まちづくり

本年度より介護する家族の不安や負担を解消するため、市が保険料を負担し、認知症に起因した第三者への損害を補償するための個人賠償責任保険に加入する事業を新たに開始します。

また、2014年9月より「子

どもいじめ虐待防止条例」を施行し、子どもが安心して生活し、健やかに成長することができる環境づくりを推進しています。

妊婦と配偶者や乳幼児と保護者が気軽に立ち寄り、交流できる場所として整備を進めている親子ひろば事業では、拠点となる親子ひろばに心理士などを配置し、相談体制の強化を図っています。また、「子育て応援パートナー」（利用者支援専門員）が子育て支援施設を巡回し、リスクが高く継続的な支援が必要な場合は、子ども家庭支援センター内の要保護児童対策地域協議会につなぎ、早期の対応を図っています。

そして本年7月より、子育て世代包括支援センター事業をスタートさせます。育児不安群を早期に把握し、同センターでコ

ネットし、関係機関、要保護児童対策地域協議会との密な連携を図ります。これにより、いじめや虐待の早期発見・対応を図り、児童虐待ゼロを目指しています。

食のブランド化

本市では、食を通じた地域の活性化に力を入れており、地産地消を推進する事業「こくベジプロジェクト」に取り組んでいます。

江戸時代に新田開発が行われて以来、300年以上続く畑の産物である農畜産物をブランド化して「こくベジ」の愛称で呼んでいます。今では農業者、飲食店の協力を得て、こくベジメニュー提供店が約100店舗にまで拡大し、認知度の向上が図られ「こくベジ」目当てに多くの方が訪れています。



国分寺産の農畜産物「こくベジ」



市内小学校でベトナムのパラ・パワーリフティング選手団と体験授業を実施

また、本市は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてベトナムのホストタウンに登録されました。本年1月には国際招待試合で来日した同国のパラ・パワーリフティング選手団を受け入れ、小学校での体験授業など市民との交流を行いました。これらの交流は、次世代を担う子どもたちにとって貴重な体験になります。今後「大会会場に最も近いベトナムのホストタウン」として、パラリンピック競技を中心とした選手団の受け入れに取り

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として

障害の有無や年齢にかかわらず、市民の生涯スポーツ活動が活発に行えるよう、体育施設のバリアフリー化などを積極的に実施しています。特に屋外体育施設の拠点である「けやき運動場」の人工芝化を進めており、利用機会の拡大を図っていきます。

組むとともに、「ベトナムの文化を知り」「国分寺の文化を発信し」「ベトナムの選手を応援する」ための交流を積極的に進めます。

災害に強いまちづくり

本市は、地域と市民が主体となる防災まちづくりを進めています。1978年に開講した「市民防災まちづくり学校」では、座学のほか見学や実習などを通して、防災に関する知識を習得できます。修了した市民のうち申し出のあった方を「市民防災推進委員」として認定し、地域の防災力向上のため活躍をいただいています。

1981年から開始した「防災まちづくり推進地区」制度は、自治会などと市が協定を結び、市から防災コンサルタントを派遣し、推進地区の特性を踏まえた「地区防災計画」の策定、計画に基づく防災まちづくりを推進しています。第1号地区として協定締結をした「高木町自治会」は、1984年に「地区防災計画」を策定し、2017年9月にはその活動が認められ、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。現在、15地区と協定を締結し、市域の49・

1%が防災まちづくり推進地区となりました。

また、大阪府北部の地震では、ブロック塀の倒壊により人命に関わる被害が発生したことを受け、これまで進めてきたブロック塀などの撤去工事助成制度について上限を撤廃するなどの拡充を行うとともに、本年よりブロック塀の耐震診断助成を新設します。

これにより、さらなる安全対策の促進を図り、市民が安心して暮

プロフィール

- ◆ 面積 11.46 km²
- ◆ 人口 12万3672人 (3月1日現在)
- ◆ 世帯数 6万143世帯 (3月1日現在)

〔将来都市像〕魅力あふれひとつがたがる文化都市国分寺

〔まちの特徴〕首都近郊にあつて、武蔵野の面影を残す住宅都市であり、水と緑に彩られた歴史と文化のまち

〔特産品〕東京うど、ブルーベリー、



国分寺市長
井澤邦夫



ハナミズキ、イロハモミジ、ポインセチアなど

〔観光〕国指定史跡武蔵国分寺跡、国指定名勝殿ヶ谷庭園、環境省選定名水百選お鷹の道・真姿の池湧水群

〔イベント〕国分寺まつり、武蔵国分寺新能、国分寺史跡駅伝、星空観望会、ぶんぶんウォーク



地域の防災力向上を目的に開講する「市民防災まちづくり学校」

らせる災害に強いまちづくりを推進します。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

三河湾に輝く人と 自然が共生するまち蒲郡

本年度で市制施行65周年を迎える蒲郡市

蒲郡市は、本州のほぼ中心に位置しており、渥美半島、知多半島の二つの大きな半島に囲われた海辺の観光地です。三河湾国定公園に指定されており、三谷温泉・蒲郡温泉・形原温泉・西浦温泉の四つの温泉郷があります。



国の天然記念物に指定されている蒲郡のシンボル「竹島」

1900年（明治33年）には「東海道にてすぐれたる海のながめは蒲郡」と鉄道唱歌に歌われたように、竹島を中心とする海辺の自然

景観は古くから有名であり、万葉の歌人や近代作家にも愛され、数多くの文人が好んで訪れました。

また、温暖な気候を生かした「蒲郡みかん」の生産が有名で、現在では4月から出荷される温室みかんや、早生みかんの中でも糖度が高い「箱入娘」、そのほか中晩柑の部類として「せとか」「はるみ」「南津海」「樹熱デコポン」などそれぞれ個性のある高品質な多種多様なみかんを、1年を通して楽しんでいただけます。

漁業に関しても四つの漁港を有し、渥美半島沖で収穫される深海に属する魚をはじめ、伊勢湾、三河湾の魚介類が多く水揚げされます。

本市は、本年が市制施行65周年という節目の年でございます。5月の記念式典を皮切りに、2020年3月にかけてさまざまな記念事業を展開してまいります。市民の皆さまと一緒に祝いし、1年を通してにぎわいと活気あふれるまちにしたいと思っております。

夢と希望に満ちた、明るく元気なまちを目指して

夢と希望に満ちた、明るく元気なまちを目指して

本市では、「夢と希望に満ちた、明るく元気なまち」を目標として、「堅実な行財政運営」「産業の振興・働く場の確保」「安全で住みやすい、魅力あるまちづくり」の三つの施策を柱に進めております。

元気なまちを目指すには、まず市民の皆さまが健康でなければなりません。2013年度からは健康づくりを市の重点施策に位置付



「山車（やま）」を「氏子」の大勢の男性が力強く引き回す300年の歴史を誇る三谷祭（みやまつり）

け、先進的な新規事業を毎年掲げ、継続的かつ全市的に取り組みしております。

これまで、旅館に一泊して保健指導を受けていただく「スマート・ライフ・ステイ in 蒲郡」や「ワンコインがん検診」「体重測定 100日チャレンジ!」「中学生のピロリ菌検査・除菌事業」などさまざまな事業を実施してきました。

さらに、生活習慣病予防のためには適切な運動の実践が重要であることから、運動指導員と保健師の個別指導の下、トレッドミルや筋トレの運動機器を利用して運動を実践できる「運動サポートセン



日本最大級のヨットレース、「エリカカップヨットレース」

ター」を2017年11月に開設しました。その結果、多くの方に減量や検査数値の改善が見られています。今後も生活習慣病の予防、重症化予防により、市民の皆さまの健康寿命の延伸を目指してまいります。

その他、産業の振興として、主要産業の観光産業をはじめ、繊維産業などの地場産業の活性化による、地域の活力回復に努めております。

観光振興の取り組みとしては、本年3月に大型外航クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス号」の来航、会員制リゾートホテル「ラグーナベイコート倶楽部」の開業といった、本市の魅力を生かした話題が続きました。この機会を大

事にし、観光関係団体と協力して、全国に「観光のまち、蒲郡」を発信するとともに多くの観光客誘致を図ってまいります。

また、新たな企業の誘致と既存企業の流出防止のため、積極的に市内外の企業を訪問し、新規立地を希望する企業や既存企業の増設・移転のニーズの把握などの情報収集を行い、それぞれの企業に応じた支援を実施して働く場の確保へ結び付けたいと考えております。現在、こうした企業誘致の受け皿の一つである企業用地造成事業を実施し、売却先の選定作業を進めている最中であります。年度内には売却先を決定し、2020年12月には土地の引き渡しをしたと考えております。

今後、あらゆる事業を実施し、夢と希望に満ちた、明るく元気なまちを目指して、全力で進めてまいります。

将来を担う子どもたちのために

全国的に少子化が進行し、人口減少が避けられない中、自立したまちづくりを進めていくため、2015年度に策定した「蒲郡市

まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき施策を実施しています。

本市の総合戦略においては、子育て支援にかかる施策を第一に掲げております。本年4月1日には、子育て支援に関連する二つの施設を保健医療センター内に開設しました。一つは妊娠から子育て期までのさまざまな相談に対応できる「子育て世代包括支援センター」です。もう一つは、子ども

プロフィール

- ◆ 面積 56・92 km²
- ◆ 人口 8万521人
- ◆ 世帯数 3万2545世帯

〔将来都市像〕三河湾に輝く人と自然が共生するまち蒲郡

〔まちの特徴〕緑の山々と美しい海、豊かな自然に恵まれ、趣の異なる四つの温泉地を持った海と湯のまち

〔特産品〕蒲郡みかん、イチゴ（サンベリー）、深海魚（アカザエビ、メヒ



蒲郡市長
稲葉正吉



カリ、ニギス、あさり、繊維ロップ、三河木綿

〔観光〕竹島、竹島水族館、三河大島、蒲郡温泉、三谷温泉、形原温泉、西浦温泉、ラグーナテンボス

〔イベント〕潮干狩り、エリカカップヨットレース、あじさい祭り、蒲郡まつり納涼花火大会、三谷祭、蒲郡市農林水産まつり、三河湾健康マラソン

の発達にかかる相談やお子さん一人一人の特性に適した訓練などを行い、日常生活や集団生活に適應できるように支援を行う「児童発達支援センター」です。

子育て世代の皆さまが楽しく安心して子育てができるよう、そして未来の希望である子どもたちが、健やかに成長し、将来の蒲郡を担っていただけるように、魅力あるまちづくりを実現してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

海・山・人がつながり 笑顔で暮らせる元気なまち 「リラックスタウン日向」へ若者に選ばれるまちを目指して

のんびりと リラックスできるまち

宮崎県の北東部に位置する日向市は、東九州の扇の要に位置する重要港湾「細島港」を擁し、港湾工業都市として発展を続けてきました。

年間平均気温は約17℃と温暖で降雪を見ることがほとんどなく、年間日照時間も2000時間を超えるなど晴天に恵まれ、暮らしやすい気候条件にあります。

海岸部には国の天然記念物に指定された柱状節理が見事な日向岬や、延長4kmに及ぶ広い砂浜が特徴のお倉ヶ浜、山間部には壮大な山々に清らかな湧き水や澄み切った空気、季節ごとに彩りを変える山桜やツツジなど、自然が織りなす芸術ともいえる景色は圧巻で



全国から集う2000人の踊り手で、まちが赤着物一色で染まる「日向ひよっとこ夏祭り」

す。国民的歌人・若山牧水生誕の地「東郷地区」や、神武天皇お舟出の地「美々津地区」など、文化・歴史資源も豊富にあります。

一方、JR日向市駅を核として、機能的でコンパクトな街並みを形成している中心市街地では、日向ひよっとこ夏祭りなど、駅前交流広場を活用した多彩な催しが毎週のように開催され、にぎわい

が創出されています。

温暖な気候や恵まれた自然環境、ゆつたりとした人間味あふれる空間の中で、市民の皆さんや本市を訪れる人が笑顔で穏やかに過ごしているまちをイメージして「リラックスタウン日向」をキャッチフレーズに定めています。

若者に選ばれるまち 日向へ未来づくり戦略

人口減少・高齢化が加速化する中、活力ある地域を維持していくために、将来のまちづくりの原動力となる「若者」に焦点を当て、本市で育った若者や都市部に住む若者が本市で暮らし、地域の担い手として活躍してもらえ、目標に「若者に選ばれるまちづくり」を総合計画の重点戦略に位置付け、三つの柱に基づいて施策を

展開しています。

未来へつなげる人づくり

全ての中学校区で導入している小中一貫教育をはじめ、キャリア教育、コミュニティ・スクールの三つの取り組みを一体化させた「日向市ならではの三位一体の教育」を推進しているほか、ICT化やエアコンの設置など、教育環境の整備を進めています。

各小中学校におけるキャリア教育では「日向の大人はみな子どもたちの先生」を合言葉に、地域や企業、商工会議所なども連携しながら、地域で働く大人が、子どもたちに働く喜びと苦労を本気で語っていただく「よのなか教室」を実施しています。また、若者を対象に、人と地域資源を生かしたビジネスの創出や、さまざまな地域課題解決のための手法、資金調達の方法などを学ぶ講座「日向ドラゴンアカデミー」も開講。2018年度からは、将来の夢や希望に向かって努力する中学生に最大30万

円を支援する「子どもの夢サポート事業」を立ち上げました。

活力を生み出すにぎわいづくり

サーフィンをまちづくりの一つのツールとして地域経済の活性化につなげる「サーフタウン日向プロジェクト」を策定し、「リラックス・サーフタウン日向プロジェクト」に取り組んでいます。

雇用の創出や産業振興としては、日向市産業支援センター「ひむか・Biz」を核とした中小・小規模事業者の支援や、重要港湾「細島港」の整備などを推進。細島



ヒュー!日向がキャッチコピーの「リラックス・サーフタウン日向プロジェクト」

港においては、原木輸出など木材取扱量の急増に対応する国際物流ターミナル16号岸壁の整備が国土交通省の新規事業として採択されたところであり、農林水産業の国際競争力強化や、雇用・地元経済の活性化に大きく寄与することが期待されます。

その他、日向ブランドの「へべす」や「細島いわがき」といった特産品の生産・販路拡大にも力を入れています。

笑顔で暮らせるまちづくり

妊娠から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を実施する「ヘルシースタート事業」を実施しており、乳幼児健診をはじめ、産婦健診、産後ケア事業、各種相談事業や病児保育事業など子育て環境の充実を図っています。

南海トラフ巨大地震による津波被害対策として市内各所に避難山や避難タワーなどを順次整備するとともに、防災拠点として免震構造を採用した新庁舎を建設。地元のスギとヒノキをふんだんに使用した新庁舎は、災害から市民を守る強さを備えるとともに、市民ホールや広いテラスをはじめ、親

子広場や芝生広場などにぎわいの場としても利用しやすく、親しみとぬくもりを感じてもらえる施設となっております。

また、市民がスポーツに親しみ、心豊かに健康的な生活が送れる環境を整えるため、2026年の2巡目宮崎国体などを見据え、総合体育館の整備に向け動き始めたところです。

プロフィール

- ◆ 面積 336・94km²
- ◆ 人口 6万1312人
- ◆ 世帯数 2万8869世帯

〔将来都市像〕海・山・人がつながり笑顔で暮らせる元気なまち「リラックスタウン日向」

〔まちの特徴〕まぶしい太陽と紺碧の海、緑豊かな森林に恵まれた大自然と歴史・文化の贈り物に満ちた魅力あふれるまち

〔市町村合併〕2006年2月25日に東郷町と合併



日向市長 十屋幸平



若者に選ばれるまちづくりを

サーフィン利用客が年間30万人を突破し、移住者も増加するなど、着実に成果が表れてきています。日向で育った子どもたちだけではなく、日向に住んだことがない方にも「選ばれるまち」となるよう、これからも魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。

〔特産品〕日向はまぐり碁石、へべす、細島いわがき、お舟出だんご、牧水そば、こなます、ごんぐり

〔観光〕お倉ヶ浜、日向岬（馬ヶ背、願いが叶うクルスの海）、美々津重要伝統的建造物群保存地区、牧水公園

〔イベント〕のりのりカップinお倉ヶ浜、日向木挽唄全国大会、こども落語全国大会、細島みなと祭り、日向ひよつとこ夏祭り、牧水・短歌甲子園、日向十五夜祭り、まちなかハロウィン、日向はまぐり碁石まつり、日向ひよつとこマラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。